

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

「本部」反動分子による 動労の警察労働組合への変質を許すな

ペテン的「動労糾弾決議」と「告訴路線」を粉碎せよ
反動的千葉糾弾決議

去る七月に開催された第三七回動労全国大会において「本部」反動分子が暴力とどう喝とペテンにもとづいて画策し、採択した「動労千葉糾弾決議」についてわれわれは、この間、「日刊」紙上において再三にわたって暴露し、糾弾してきた。しかし、「本部」反動分子は、この全国大会における「決議」を踏み絵として、全国の地方本部大会・支部大会等において「決議」の強要を策動している。われわれは、こうした「毒をくらわば皿までも」のことわざ通り、その反動性・反労働者性をますますむき出しにする「本部」反動分子の「掃・追放、動労大改革にむかって奮闘しなければならぬ」。

「動労千葉糾弾決議」の 反動性・ペテン性

われわれは、「六・一二津田沼事件」に対し、今日まで一貫してこの「事件」が動労「本部」反動分子による動労千葉破壊を目的としたデッチ上げであることを再三再四明らかにしてきた。このことは、なによりも「本部」反動分子が「事件」の翌日の六月十三日に、千葉県警・船橋署にわが動労千葉組合員十名を「告訴・告発」するという素早い対応に端的に示されている。この間「本部」反動分子・国鉄当局一体となったありとあらゆる動労千葉破壊攻撃にもかかわらず、わが動労千葉一三〇〇組合員の団結は、彼らの攻撃をはねかえし、粉碎することを通して、逆に打ち固められ、三月ジェット闘争をはじめとする諸闘争を意気軒こうと闘い抜き、強固な組織体制を打ち固めている。

こうしたわが動労千葉の組織的・運動的前進の前に「本部」反動分子は、ついにわが動労千葉破壊のため、「警察権力への告訴・告発」という「最後の手段」にうったえてきたのである。

全国大会では、この自らのおかした「権力への告訴・告発」という労働組合にあるまじき悪業に対する多くの代議員からの批判と反対の前に、極めて巧妙に「動労千葉糾弾決議」なるものにすりかえ、「採決」を強行したのである。

そして、この「全国大会決議」を「踏み絵」として地方における「大会決議」を強制し、全国の動労組合員に国家権力の力をかりた動労千葉破壊攻撃の「正当性」を強制しようとしているのである。

ますます動労を変質させる
「本部」反動分子

この間、動労「本部」反動分子の推進してきた

「闘い」とは、一体何か。

①彼らは、「水本デマ運動」を動労の名のもとに推進し、革マル派のみが主張する立場をより鮮明に打ち出し、「三里塚闘争は、謀略」「一線を画する」として敵対し、動労千葉への排除・破壊攻撃をつぎつぎと行い、四・一七津田沼襲撃を公然と行ない片岡支部長への頭がい骨々折の重傷を負わせ、動労の暴力支配をますます強めている。

②「国鉄赤字論」に対する「貨物安定輸送リスト放棄宣言」「五五・一〇ダイ改・乗務員運用合理化」攻撃に対しての「積極攻撃型反合闘争」――「大胆な妥協路線」「合理化屈服」そして、今年度の全国大会では、「積極的に国鉄の営業政策を提言する」として、労使協調路線へとさらに一歩屈服を進め、「合理化絶対反対」方針を公然と放棄し、国鉄三五万人体制攻撃に屈服・率先協力方針を打ち出したのである。

②さらに、津田沼支部に端的に示されるように、「本部」反動分子は、積極的に国鉄当局の「職場管理体制の強化」「勤務の厳正化」要求を行ない新マル生攻撃の先兵となっている。

「本部」反動分子を「掃・追放し、
動労大改革を闘いとうろ

このように今日、動労「本部」反動分子の「闘い」と「運動」がことごとく警察労働組合へと傾斜し、自らのみが生き延びるために、全ての合理化に積極的に協力・屈服するという極めて反労働者のものへと変質しつつある。

われわれは、今こそ、全国の戦闘的動労組合員と共に、権力への「告訴・告発反対」「国鉄三五万人体制粉碎・反合闘争の復権」「『本部』反動分子「掃・追放」にむけて闘い抜こうではないか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよノ